

－発表要旨・論文－

一般演題(1)

1. 内視鏡スコープ洗浄の現状把握と意識調査

日本赤十字社熊本健康管理センター

外来看護課 ○渡邊 和美 吉井 珠美 小原ひふみ

中野 裕美 盛川恵美子

**【背景・目的】**

当施設の1日の上部消化管検査の受診者数は80名で、洗浄者1名当たりの洗浄回数は約13回である。洗浄業務に関しては、定期的に感染管理の勉強会とメーカーによる機器取扱い研修会を行い、ガイドラインに沿った洗浄マニュアルを作成し掲示している。しかし、洗浄者によって洗浄時間が違う等、洗浄マニュアルの遵守に疑問を感じた。

今回、洗浄の現状と洗浄者の意識を明らかにするため、調査を行ったので報告する。

**【対象・方法】**

洗浄者16名(看護職6名、看護補助者10名)を対象に、平成30年6月に半構成的面接法で調査を行った。内容は、1. 洗浄マニュアル遵守の有無 2. 洗浄工程の重要箇所 3. 実際の洗浄方法①汚染部位と認識している箇所②洗浄工程の重要箇所と汚染部位と認識している箇所の比較 4. 洗浄業務の優先度 5. 個人差(他者との相違点) 6. 洗浄に関する疑問点の6項目とした。

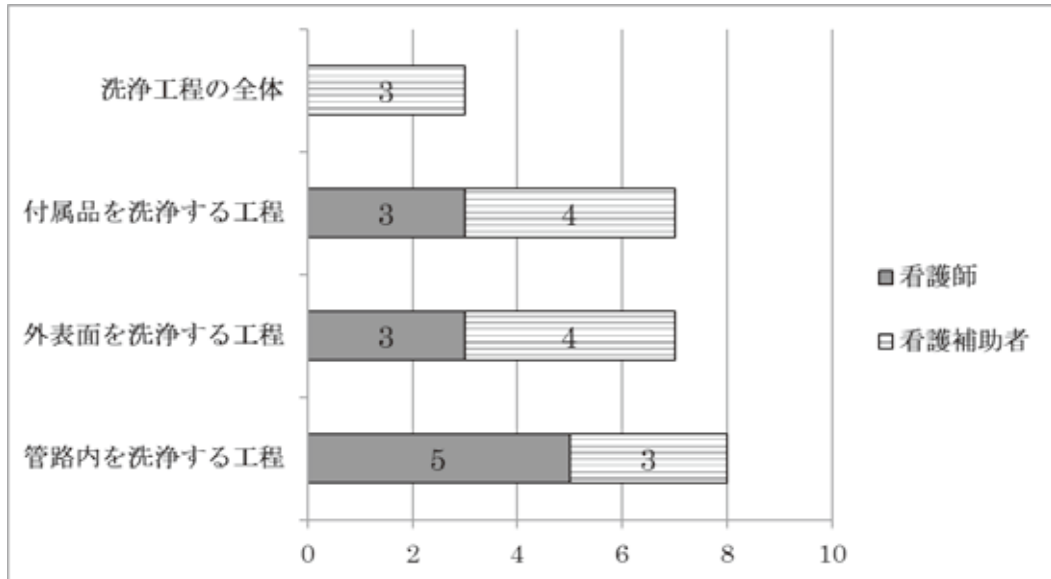
**【結果】**

洗浄マニュアルの遵守の有無については、時間に追われる場合も踏まえて「洗浄マニュアルを遵守し洗浄できている」と全員が回答した。洗浄工程で重要視している箇所については、全体の工程が3名、管路内が8名、外表面が7名、付属品が7名と回答した。汚染部位の認識については、外表面のみと回答したのは9名で、汚染物がどのように管路内を通過しているのかわからない等の意見であった。洗浄工程の重要箇所と汚染部位と認識している箇所を比較して、相違していたのは11名で、洗浄工程の根拠も明確な回答はなかった。一致していた者のうち洗浄工程の根拠を回答できたのは、看護師の2名であった。洗浄業務の優先度については、感染管理と回答したのは8名、感染と検査の流れが3名であった。検査の流れが最優先と回答した2名も、優先度は低くなっていたが感染管理の必要性は認識していた。個人差については、有りが8名で、洗浄の熟練度の差や、指導者の教え方の違い等の意見であった。疑問点については、有りが12名、その内解決できていないが3名

で、相談する時間がない、基礎的な事は聞けない等であった。

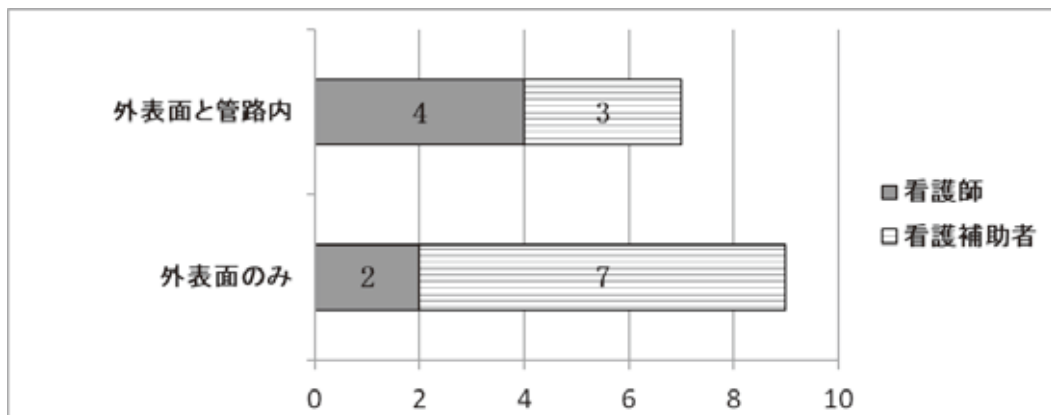
洗浄工程の重要箇所

複数回答可



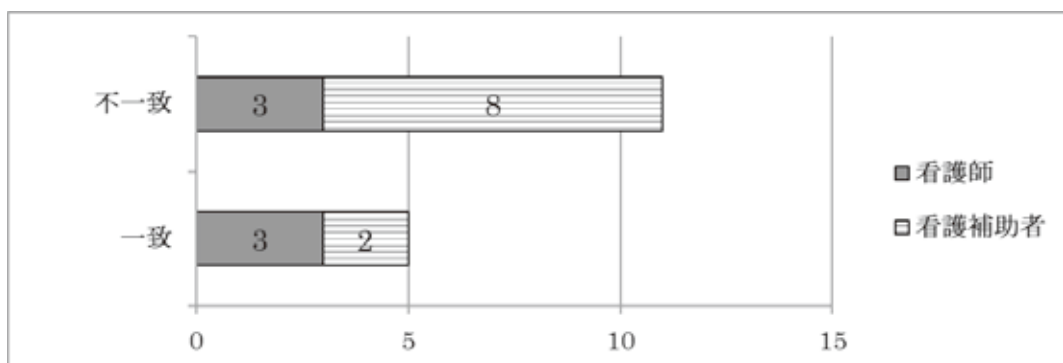
実際の洗浄方法（汚染部位と認識している箇所）

N=16



実際の洗浄方法（洗浄工程の重要箇所と汚染部位と認識している箇所の比較）

N=16



## 【考察】

洗浄マニュアル遵守に対する意識が高い事が明らかになった。しかし、洗浄工程で重要視している箇所と汚染部位と認識している箇所に乖離が生じていたことや汚染部位は外表面のみに意識が集中している現状があった。これは、勉強会で学んだスコープの構造と機能を実際の洗浄方法に関連づけられていないためと考える。そのため、汚染部位とその洗浄方法等、管路の構造と機能の関連について教育の見直しが必要と考える。

## 【参考文献】

- 1) 三野さとみ；病棟看護師が行うベットサイド洗浄手順の統一，日本消化器内視鏡技師会会報誌，No58，P85～87，2017
- 2) 阿部信也；消化器内視鏡の感染管理におけるATPふきとり検査の活用事例「見えない汚れ」を客観的に数値化、意識改革に壮大な効果」，月刊HACCP，11月号，P61～67，2015
- 3) 坂田友美；内視鏡感染管理における内視鏡洗浄度調査の重要性について，日本臨床微生物雑誌Vol22，No1，P35～41，2012

【連絡先：〒861-8528 熊本市東区长峰南2-1-1 TEL 096-384-3100（代表）】